

すぎなみ大人“熟”してる？

Jukusiteru? TIMES'16

平成28年6月15日発行
発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

第2号



6月1日
水曜夜コース
受講生18名

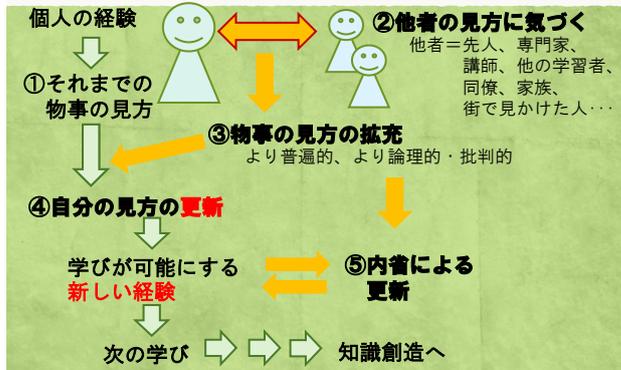
本日の流れ

- ・あいさつ&スタッフ紹介
- ・ガイダンス
- ・全体自己紹介ワーク
- ・グループワーク①②

第1回 おもしろき なきことの世を おもしろく

「しなきゃいけない」を超える試み＝アソビバージョン！

▼ **遊びから広がる可能性を探求する。テーマは「健康」だ！** : 大人塾水曜夜コースが始動した。遊びの視点を通して新しい常識を生み出すイノベーションは、目的や義務感を超越する試みである。「まず楽しんでみよう！楽しいから続くんだ！」という思いで3年目を迎えたアソビバージョン、今度はテーマに「健康」を据えている。「節制」や「努力」など専門家の語る「べき論」を解きほぐし、自分たちで楽しみながら結果として健康になっちゃった！そんな新しい試みにチャレンジする。健康については「知っている」ことも多いが、それまでの視点が他者



との関係で変わるきっかけや次の経験や学びへとつながることも大いにある(左図)。大人塾の学びは、知識やスキル習得を目的とする従来の学び(learn)ではなく、知識やスキルを現場で自分のものとして使いこなす「学びほぐし(unlearn)」を重要視しているのである。



学習支援者

広石 拓司



学習支援
補助者

高橋 明子



全体自己紹介 そしてグループワークへ…

▼ **24時間以内に HAPPY だったこと、ある？** : ガイダンス後は受講生同士の自己紹介。誕生日順に円状に座り、24時間以内にHAPPYだったことを1人ずつ発表した。前の発表した人に関連することを基本に、思いついた人から発表(右上)した。はじめはハードルが高そうだったが、意外と他の人の発表を聞くと「あ、自分も！」とでてきたようで、まさに視点の転換。「講座に遅刻しそうだったが間に合った」「講座申込みがギリギリでできた」など講座関連のHAPPYが多かったのは事務局冥利につける。その後は、3人ずつのグループになって「この3日間でHAPPYだったことを10個ずつ」「不健康とわかっててもやってしまうこと&その理由」をそれぞれ話し合った(右)。次回は公開講座。健康を決める力とは何か、ともに考える時間である！(文:瀬山)



感想集 (一部)

・講師の方の明るい誘導によって初めての方とも楽しくお話することができ、感謝です、今後、どんな人とのつながり。あそびが発展するのかワクワク！

- ・ワークショップのやり方、おすすめ方が参考になりました。
- ・不健康について3人で話し合った結果、帰りに飲みに行こうとなったのが嬉しかった。
- ・楽しそうな予感！



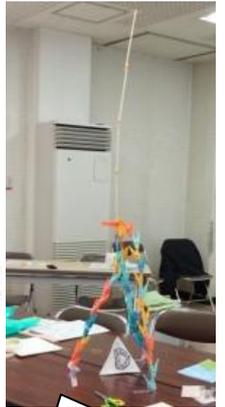
第1回 自己紹介とコースガイダンス

《はじめての共同作業！？》

「すぎなみ大人塾」の名物講座、だがしや楽校は8年目に突入。学習支援者の谷原さんの明るい進行でスタート！すると開講のあいさつもそこそこに、さっそく皆さんで作業をしましょう！との声掛けが…。ワークはいたって単純。洗濯バサミ、割り箸、輪ゴム、紙皿、その他各テーブルの上にあるものを何でも使って、高く高く積み上げていくというもの。初対面の受講生同士、戸惑いながらの共同作業が始まった。

まず4グループに分かれて高さを競い、その後は1位と4位、2位と3位で作ったものを組み合わせてさらに高みを目指す。二つを一つに組み合わせることにより重さを支えられなくなってバランスを崩したり、結局組み立て直したり…。声を掛け合い、試行錯誤の末できたものはまるで現代アート作品のようだった！

まずは土台をしっかりと作らないと…という意見多数。土台の作り方に、それぞれの個性が現れています。



学習支援者：
**谷原
博子さん**



講座の初回は、どうしても緊張しがちだ。こうしたゲームを通じて場をリラックスさせ、参加者同士のコミュニケーションを促すという、だがしや楽校をずっと支えてきた谷原さんらしいアイデアで、すっかり雰囲気があたたかくなった。

高さを出すポイントは割り箸！一番高いグループは120cmにもなった。

《だがしや楽校ってなに？》

続いては谷原さんによるコースガイダンス。だがしや楽校とは、自分の好きなモノや特技を、まるで駄菓子屋を開くように並べ、それを分かち合うことで人々との関係をつくっていく取り組みだ。今年度はだがしや楽校を蚕糸の森公園で一回、自主企画で一回開催する。

一日のイベントの成功をただ目指すのではなく、そこに至るまでのやり取りや準備、終了後のふり返り、次につなげること…その一連のプロセスすべてがだがしや楽校なのだ。そのポイントとして、谷原さんがある卒業生のコメントをご紹介(右記参照)。自分の楽しみから、ゆるやかにつながりを生むだがしや楽校。これからの一年で体感していきましょう。

だがしや楽校とは？
(BY卒業生)

- 一、自主的に楽しむ
- 二、気負わない
- 三、事前に考えすぎない
- 四、承認してくれる仲間がいる

《ドキドキの自己紹介タイム》

最後は自己紹介。自分の順番が回ってくるまでドキドキ、終わったらホッとして、結局ほかの人の話はうわの空…そんな事態を防ぐため、受講生からの案でランダムにボールを投げての指名制に。このように、場を楽しくする自由な発想が飛び出すのもだがしや楽校の醍醐味。これからの講座で、どんな発想が生まれるか楽しみでならない。(文：遠藤)



中曽根 聡 (だがし)

「めだかの学校」的社會教育を仕事にして28年。
みんなで元気にワイワイ発想を磨きましょう。

遠藤 明日香 (だがし)

音楽とサッカーが好き…だが、なぜかいつもマイナー路線を邁進してしまう。しかも好きなものへの拘りがあまりすぎて、仲間ができません(泣)

加藤 紀里子 (アソビ)

東京・新宿生まれの荻窪育ち。
趣味はケーキとパン作り、スポーツはテニスとスキーをしています。
冬は北海道に毎年いっています。

吉川 浩 (アソビ)

新潟県出身、杉並→練馬→中野区在住。趣味：旅行、喫茶店(ジャズ・名曲含む)・カフェめぐり、野球観戦(プロ、甲子園)。

瀬山 岬 (アソビ)

アソビノベーションに可能性を感じる一人。ちょっとずれたものや、一見ムダだと思われるものに興味があるとはいえ、結局いろいろ好き。

次号以降、ここでは受講生をご紹介！個性豊かな素顔をお楽しみに☆

